

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月10日現在

機関番号：14301
 研究種目：基盤研究（c）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520713
 研究課題名（和文）内蒙古東部・遼寧西部における出土資料の調査に基づく鮮卑・契丹史の研究
 研究課題名（英文）A STUDY OF HISTORY OF XIANBEI AND KHITAI BASED ON INVESTIGATIONS OF EXCAVATED SOURCES IN EASTERN INNER MONGOLIA AND WESTERN LIAONING
 研究代表者
 吉本 道雅（YOSHIMOTO MICHIMASA）
 京都大学・文学研究科・教授
 研究者番号：70201069

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、1～9世紀の鮮卑・契丹に関する文献資料の史料学的分析、関係研究文献の批判的再検討を踏まえつつ、主に内蒙古自治区赤峰・通遼地区、遼寧省朝陽地区の県級博物館において資料調査を行い、確実な知見を蓄積することで、鮮卑・契丹史の通時的理解を試みたものである。

研究成果の概要（英文）：This research project attempts to diachronically study history of Xianbei and Khitai by survey of excavated sources mainly at prefectural museums in Chifeng and Tongliao areas, Inner Mongolia and Chaoyang area, Liaoning province, also based on historiographical analysis of literatures about the Xianbei and the Khitai from the 1st to the 9th centuries, and critical reexamination of the previous works.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 22年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 23年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 24年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：鮮卑・契丹・内蒙古・遼寧・出土資料

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、中国史の立場から、

先秦時代の中国本土における王朝・諸侯国の国制、先秦期を扱った資料の研

究を進めてきたが、さらに中国専制国家の一つの重要な要件となる華夷関係の形成過程を研究課題に加え、北方民族に関わる文献の史料学的研究を進めるにいたった。北方民族研究は、中国史・北方民族史（北アジア史・東北アジア史）・考古学の学際的研究領域である。先秦史と同様に文献資料が量的に乏しいため、考古学的資料の占める比重が大きく、それにも関わらず歴史的な全体像の構築には、文献（漢文資料）の記述が決定的な役割を担う。研究代表者が先秦資料について実践してきた史料学的方法に鑑みると、北方民族史・考古学の研究者による漢文資料の扱いには問題が多い。また考古学的研究は公刊された発掘報告の二次的な利用に基づくことが一般的だが、日用品・工具といった骨董的価値の乏しい器物は未公表のまま発掘地の博物館に死蔵されていることが多い。現地の博物館に赴き、館蔵資料を実見するとともに、発掘担当者の率直な見解を聴取し、未公開情報を蓄積することは、先住民の具体像の解明にきわめて有益である。

内蒙古東部・遼寧西部は、中国本土の農耕・北アジアの遊牧・東北アジアの狩猟採集という異なった生業—生態環境の交錯地帯であり、乾燥化への危機感ともあいまって、学際的な研究関心を集めており、近年では「赤峰中美聯合考古研究項目」として米中の考古学者による国際共同研究が展開している。

こうした見地から、研究代表者は、文献の史料学的分析、内蒙古東部における現地調査に基づく未公開の考古学的資料の収集を主軸として、平成18～20年度基盤研究(c)「内蒙古東部における青銅器文化関係資料の調査に基づく

先秦時代北方民族の研究」においては、赤峰市敖館旗博物館の館蔵資料の調査を踏まえつつ、前3世紀以前の夏家店上層文化およびそれに後続する諸遺跡に関する研究を進め、ついで平成20年度三菱財団人文科学研究助成「内蒙古東部の出土資料の調査に基づく鮮卑・契丹の民族史的研究」においては、通遼地区の複数の博物館の館蔵資料の初歩的調査を踏まえた上で、前2～後9世紀の東胡系諸民族（烏桓・鮮卑・契丹）の通時的推移につき一定の展望を得た。

東北アジアには、東胡系・濊貊系・肅慎系の三大民族群があったが、この間、研究代表者は、これらに関わる文献資料の全般的な研究を進め、それぞれにつき、「東胡考」（2008）・「中国先秦時代の貊」（2008）および「濊貊考」（2009）・「肅慎考」（2006）を公刊し、おおむね9世紀以前の推移に対する包括的な展望を提示している。

今回の研究課題は、東胡系諸民族のうち、1～9世紀の鮮卑・契丹に重点を置いて、知見のさらなる深化を試みるものである。中国史の立場でなされた鮮卑史研究は、拓跋部の北魏建国に帰結するものとして鮮卑史を描くことが一般であるが、鮮卑—東胡系諸民族は柔然・契丹・庫莫奚・室韋など北アジア・東北アジアに一貫して存在したのであり、中国史に偏向することなく、北アジア・東北アジア史として鮮卑—東胡系諸民族を通時的に理解することが要請される。本研究課題が鮮卑・契丹をあわせて対象とするのは、両者の通時的理解を志向するために他ならない。

北アジア史の立場における鮮卑史の古典的研究としては、馬長寿『烏桓与鮮卑』（1962）・内田吟風『北アジア史

研究鮮卑柔然突厥篇』(1975)・林幹『東胡史』(1989)などがあるが、数十年前の著作でもあり、考古学的資料はほとんど利用されていない。近年では考古学的研究が盛んであり、魏堅編『内蒙古地区鮮卑墓葬の発現与研究』(科学出版社、2004)・孫危『鮮卑考古学文化研究』(科学出版社、2007)など鮮卑墓葬の包括的研究が公刊されているが、これらの所見には少なからず問題がある。第一に、文献に対する理解が不十分であり、その結果、考古学的資料の評価が損なわれている部分が少なくない。最大の問題は、北魏太平真君四年(443)に拓跋部祖宗の廟と認定された石室の遺跡が、1980年に顎倫春自治旗嘎仙洞で発見されたことを根拠に、大興安嶺北麓を鮮卑の発祥地とし、『魏書』序紀を全くの実録とみなして、鮮卑の南遷を想定し、それに従って墓葬を編年することであり、序紀の文献的性格への配慮を欠き、序紀の年代観にも矛盾する。第二の問題は、公刊された資料の二次的利用にとどまるため、本研究課題が対象とする大興安嶺以東については、朝陽地区の4~5世紀のいわゆる三燕の遺跡がもっぱら扱われ、1~3世紀の赤峰・通遼地区の資料が不十分なことである。

9世紀以前の契丹については、松井等「契丹勃興史」(1915)・田村実造「唐代における契丹族の研究—特に開国伝説の成立と八部組織に就いて—」(1938)・愛宕松男『契丹古代史の研究』(1959)などの古典的研究があるが、そもそも契丹に関する文献資料は『魏書』以降の正史の契丹伝など零細かつ断片的であり、通時的な記述である『遼史』世表をその原資料との対照のもとに分析評価する作業もなお不十分である。

考古学的研究が期待されるゆえんであるが、わずかに張柏忠「契丹早期文化探索」(『考古』1984-2)が通遼地区の鮮卑・契丹墓葬に副葬された陶器の分析に基づき両者の文化的連続性を指摘し、齊曉光「巴林右旗塔布敖包石砌墓及相關問題」(『内蒙古文物考古文集』1、1994)が唐代契丹墓の墓制に注目して同じく鮮卑との連続性を確認するのみである。類似の所見が公刊物にほとんど見あたらないのは、一つには、漢代以降の遺物を便宜的に「遼代」に収めるなど、編年的研究がなお不十分であることもあるが、それ以上に、骨董的価値の乏しい日用陶器の紹介に現地機関が消極的であることが大きく、2009年3月に研究代表者が通遼地区の複数の博物館で行った館蔵資料の調査においては、一括して出土した鮮卑・契丹の遺物が少なからず確認されており、現地調査による未公開情報の獲得が期待される。さらに特筆すべきは、研究分担者の独擅場というべき、近年における契丹文資料研究の飛躍的な展開であり、『契丹文墓誌より見た遼史』(2006)などの所見は、漢文資料の理解にも決定的な影響を及ぼすものである。

2. 研究の目的

鮮卑・契丹に関する文献資料の史料学的分析、関係研究文献の批判的再検討を踏まえつつ、主に内蒙古自治区赤峰・通遼地区、遼寧省朝陽地区の県級博物館において資料調査を行い、確実な知見を蓄積することで、鮮卑・契丹史の通時的理解を試みる。

3. 研究の方法

本研究では、考古学的資料の現地調査を進めるとともに、鮮卑・契丹に関

わる『後漢書』『三国志』鮮卑伝、『晉書』の鮮卑系諸国家の載記、『魏書』序紀、『遼史』世表およびその原資料となった諸文献の史料学的分析とそれともなう諸問題の検討を行う。この作業の結果、考古学的資料を有効に評価し、歴史の実像を復元するための研究基盤が提供されるであろう。また、中国の研究だけでなく、近年の日本では十分には参照されていない台湾・韓国の研究成果をも積極的に参照する。韓国では、近年、ナショナリズム的関心から中国東北・内蒙古を対象とする歴史学・考古学的研究がきわめて旺盛だが、中国言論界との非学問的な論争も少なくない。本研究は、こうした現代的問題状況をも視野に納めつつ、ナショナル・ヒストリーを相対化する「東洋史」的視座の再構築を志向する。

4. 研究成果

【平成22年度】

(1) 2010年6～7月・9月に内蒙古東部赤峰地区・通遼地区の博物館相当施設において資料調査を行った。陶器や工具などの日用品に重点を置き、発掘担当者と直接懇談することによって、詳細な情報を獲得した。可能な資料については、写真を撮影した。収集した資料について番号・名称・出土地点（伝世品の場合はその旨）・法量・推定年代を基本的な見出し項目とした目録を作成し、デジタル資料化した。あわせて、各博物館の公刊物を収集した。

(2) 公刊されている考古学的資料の関連情報を整理した。とくに、鮮卑については、2010年11月に孫海他編『東胡、烏桓、鮮卑研究集成』（中州古籍出版社）が公刊された。総9662頁に及ぶ資料集成であり、従来入手困難であっ

た論文・報告書が多数収録されており、これを参照して全面的な整理を進めた。

(3) 鮮卑・契丹に関する諸文献の史料学的分析を進めた。「後漢書三国志鮮卑伝疏証」「烏桓史研究序説」に続き、平成22年度は「魏書序紀考証」「遼史世表疏証」を公刊した。

(4) 韓国学界との交流を進めた。2010年8～9月に韓国国立中央博物館で北方民族関係資料の調査を行い、2010年10～11月には、檀國大学校北方文化研究所の招聘を承けて国際学会「契丹の歴史と文化」に参加し、「契丹八部考」の題目で基調講演を行った。

【平成23年度】

(1) 昨年度に引き続き2011年8～9月・2012年3月に内蒙古東部赤峰地区・通遼地区の博物館相当施設において資料調査を行った。また2011年8月には吉林省文物考古研究所を、9月には遼寧省博物館を訪問し、幹部職員と懇談するとともに、資料収集を行った。

(2) 昨年度に引き続き公刊されている考古学的資料の関連情報を整理した。

(3) 鮮卑・契丹に関する諸文献の史料学的分析を進めた。その成果の一環として、2011年9月に『韓半島より眺めた契丹・女真』を、2012年3月に「契丹國志疏証」を公刊した。

(4) 中国学界との交流を進めた。2011年8月に、吉林大学主催の「遼金史国際学術研討会」に招聘され、「契丹紀年考」の題目で講演し、9月に遼寧省博物館主催の「遼金歴史と考古国際学術研討会」に招聘され、「遼史地理志東京遼陽府条小考」の題目で講演した。

【平成24年度】

報告書の作成に務めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- 1 吉本道雅「遼史地理志東京遼陽府条小考—10～14世紀遼東歴史地理的認識—」、査読有、『遼金歴史與考古国際学術研究会論文集』上、222-230頁、遼寧教育出版社、2012年5月。
- 2 吉本道雅「契丹國志疏證」、査読無、『京都大学文学部研究紀要』51、1-69頁、2012年3月。
- 3 吉本道雅「遼史世表疏証」、査読無、『京都大学文学部研究紀要』50、31-92頁、2011年3月。
- 4 吉本道雅「魏書序記考証」、査読有、『史林』93-3、58-86頁、2010年5月。

[学会発表] (計3件)

- 1 吉本道雅「遼史地理志東京遼陽府条小考—10～14世紀遼東歴史地理的認識—」、遼金歴史与考古国際学術研究会、遼寧省博物館、2011年9月16日。
- 2 吉本道雅「契丹紀年考」、遼金史国際学術研究会、吉林大学、2011年8月7日。
- 3 吉本道雅「契丹八部考」、契丹의 歴史斗 文化、檀國大学校北方文化研究所、2010年10月29日。

[図書] (計3件)

- 1 吉本道雅『内蒙古東部・遼寧西部における出土資料の調査に基づく鮮卑・契丹史の研究 (平成22年度～平成24年度科学研究費補助金 (基盤研究 (c)) 研究成果報告書)』、295頁、京都大学文学研究科、2013年3月。
- 2 愛新覺羅烏拉熙春 (吉本智慧子)・吉本道雅『新出契丹史料の研究』、26

3頁、松香堂、2012年12月。

- 3 愛新覺羅烏拉熙春 (吉本智慧子)・吉本道雅『韓半島から眺めた女真・契丹』、300頁、京都大学学術出版会、2011年9月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉本 道雅 (YOSHIMOTO MICHIMASA)
京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：70201069

(2) 研究分担者

吉本 智慧子 (YOSHIMOTO CHIEKO)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：70331105